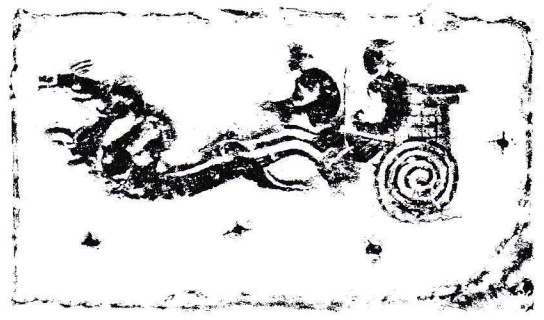
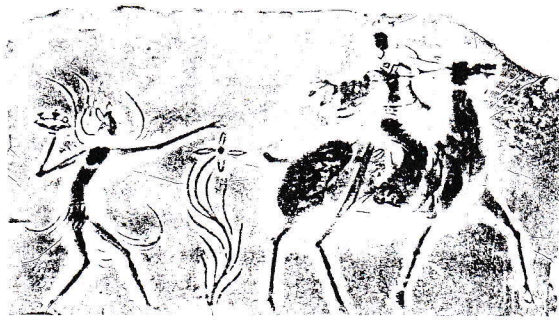




大分県書道

令和7年7月号 No. 421

「四季を愛でる——掛軸のある豊かな生活」

「床の間には掛軸」という伝統的なイメージが薄れてきた現代においても、掛軸は日本の豊かな四季の移ろいを映し出し、日々の暮らしに彩りと心の潤いをもたらす、かけがえない文化です。住宅様式の変化に伴い、和室や床の間がない家が増えましたが、季節の花を生け、お茶やコーヒーを飲みながら、その時々的情景に合う詩文の書を掛けて心を落ちつかせる——そんな豊かな時間は、時代を超えて大切にしたいものです。

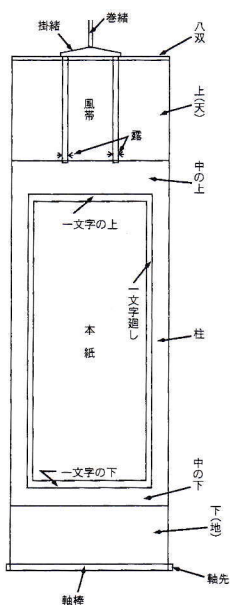
掛軸もまた、時代の変化と共に変わってきました。伝統的な手作業による掛軸の制作は、熟練の技術と手間を要するため、深い味わいがある一方で、それなりの費用がかかります。近年では、機械を用いた表装が広く普及し、高品質ながら手頃な価格で提供されるようになりました。和室だけでなく現代の住宅にも調和する「デザイン表装」など、幅広い選択肢が生まれたことで、より多くの方が気軽に掛軸を楽しめるようになっていきます。

掛軸を取り扱う上で最も大切なことは、作品への配慮です。冷暖房の風が直接当たる場所や、湿度変化の大きい場所、そして湿気の多い場所は避けるようにしましょう。また、一枚の作品を長期間掛けっぱなしにせず、他の掛軸と定期的に掛け替えることで、作品への負担を軽減し、長くその魅力を味わうことができます。

掛け替えの際は、作品に折り目がつかないように、細心の注意を払うことが何よりも重要です。一度ついてしまった折りじわは、元に戻すことが非常に困難なため、常に慎重な取り扱いを心がけましょう。軸を巻く際も、強く巻きすぎず、軽く巻き、紐も締めすぎないよう優しく扱ってください。「下げ風帯」のある掛軸は、折り目に沿って内側に丁寧に折りたたんで巻きます。

掛軸の保存には桐箱が最適で、湿気の少ない場所に保管するようにしましょう。

書道をされるみなさ



んにとって、自身の作品をどのように表装するか、その魅力を最大限に引き出すためにとても大切なことです。業者さんと相談しながら、作品の雰囲気や内容に合った形式、色合い、軸先の素材（木軸、塗り軸、焼き物など）とお客様の選択肢があります）などを選ぶことで、自分だけの作品が完成します。掛軸の色を季節の壁の色との調和を考えたりするのも、楽しいものです。

掛軸は、今では床の間に飾るものではありません。和室はもちろん、洋室のリビングや玄関など、様々な場所に飾ることで、日常の空間に四季折々の風情と豊かな彩りをもたらしてくれます。現代の暮らしに掛軸を取り入れ、その魅力を存分に楽しみましょう。

顧問・理事 樋口 義行

(紫水)